ご寄付の方法

大阪大学未来基金へのご寄付につきましては、さまざまな方法をご用意しております。
大阪大学未来基金ウェブサイトからご寄付のお申込みや払込取扱票の請求が可能です。

個 人

クレジットカード

クレジットカードでご寄付いただけます。
VISA、Mastercard、JCB、American Expressを
ご利用いただけます。

ATMや ネットバンキングでの振込

指定口座へのお振り込みによるご寄付です。
お申し込み後、メールでご案内する指定口座
（三井住友銀行）へお振り込みください。

金融機関窓口での振込

払込取扱票によるご寄付です。
お申し込み後、本学より払込取扱票を郵送いたしますので、お近くの各金融機関窓口でお手続きください。

コンビニ決済

コンビニエンスストアでご寄付いただけます。
お申し込み後、ご案内する番号をコンビニ端末へ
ご入力いただくか、お送りする払込取扱票をご利用のうえ、
お近くのコンビニエンスストアでお手続きください。

PayPay

PayPayでご寄付いただけます。
※PayPayマネーでのお手続きに対応しています。

リユースによる寄付

ご不要になった本や金券、ブランド品、
貴金属などを通じてご寄付いただけます。
提携事業者による査定額を未来基金へ
ご寄付いただけます。

※2027年1月1日より、お振込先に三菱UFJ銀行がご利用できなくなります。ご注意ください。

法 人

寄付申込書をダウンロードのうえ、必要事項をご記入いただき、メールまたは郵送で未来基金事務局へお送りください。
お申し込み内容を確認後、本学より振込手続きのご案内をお送りしますので、指定口座へお振り込みください。

ふるさと納税はじまりました。

大阪大学吹田キャンパスが所在する吹田市と連携し、ふるさと納税を通じて大阪大学の教育研等へ寄附できる仕組みです。いただいたご寄附は、大学の活動等の充実や活性化、行政・地域との連携を推進することを目的として活用させていただきます。

詳しくはこちら
吹田市公式ウェブサイト

大阪大学 未来基金

令和7年度活動報告書

大阪大学 未来基金
大阪大学 未来基金事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8
TEL：06-6879-8327　E-mail：kikin@office.osaka-u.ac.jp
受付時間：9:00-12:00、13:00-17:00（土日祝、年末年始、夏季一斉休暇を除く）

大阪大学未来基金ウェブサイト
https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp
大阪大学未来基金　検索

発行：2026年9月



大阪大学「ワニ博士」

2026
大阪大学
The University of Osaka

「創立100周年記念ロゴマーク」及び「キャッチコピー」、「100周年記念ワニ博士イラスト」が完成しました。

2031年大阪大学は100周年を迎えます。



大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA　100TH Anniversary　知を磨き 時代を拓く YOUOsaka

■創立100周年記念ロゴマーク

大阪大学のブランドカラーである「阪大ブルー」を基調とし、未来の方向を指し示す"矢印"や、先頭を切って進む"旗"を想起させる「阪大イエロー」の直角三角形が、意志と推進力を象徴します。
音符のように軽やかに弾むフォルムで「100」を描き、希望ある未来へ踏み出すエネルギーを表現しています。

■キャッチコピー

YOUOsaka

「UOsaka」の中にはいろんな「YOU（あなた）」がいます。あなたと共に歩んできた100年、あなたと共に築いていく未来を「YOUOsaka」（ユーオオサカ）という言葉で表現しました。

知を磨き 時代を拓く（英文:Refine Minds, Lead the Future）

本学が100年にわたり培ってきた学問の知を、不断の研鑽によってさらに高め、次の時代を切り拓いていくという決意を表しています。
基礎から最先端までの幅広い知を磨き続けることで、社会の課題に真摯に向き合い、新たな価値と未来を創出する―その使命を、この言葉に込めました。
創立100周年を節目に、本学はこれまでの歩みを礎とし、知の力によって時代を先導する存在であり続けます。

index

03　大阪大学未来基金概要
04　総長から皆様へ
05　坂口志文研究応援基金
06　ゆめ基金による学生への支援
08　教育・研究への支援
10　課外活動への支援
12　クラウドファンディング
14　紺綬褒章・顕彰
15　収支報告

編集方針

本報告書では、皆様からのご寄付が実際にどのように活かされ、どのような成果につながっているのかを、現場から寄せられた感謝のメッセージや具体的な活用事例とともにお伝えしています。
今年度号では総長からのメッセージに続き、ノーベル賞を受賞された坂口志文特別栄誉教授からも寄付者の皆様へのメッセージをお寄せいただきました。本学の未来を担う教育・研究への想いにも、ぜひご注目ください。
学生インタビューでは、学生の率直な思いや真摯な姿勢を、その言葉とともにお届けしています。
さらに、各ページでは活動内容やご支援の成果をより分かりやすくお伝えできるよう、データや図表も交えながらご紹介しています。
ぜひ最後までご覧いただき、皆様のご支援が生み出している成果を感じていただければ幸いです。

発行元：大阪大学 未来基金事務局（共創機構 ディベロップメントオフィス）
〒565-0871　大阪府吹田市山田丘2-8
E-mail：kikin@office.osaka-u.ac.jp

発行日：2026年9月発行



表紙には今年度より100周年に向けたシリーズデザインを採用いたしました。今後の展開にもご注目ください。

大阪大学未来基金



大阪大学未来基金は、
大阪大学が世界屈指の研究型総合大学へ発展していく上で、
長期的に安定した財務基盤を強化するために設置いたしました。





全学プロジェクト

学生生活の充実や留学機会の拡充を支え、学びや国際交流を通じた成長を後押しする基金です。



修学支援・研究者等支援のプロジェクト

経済的理由に左右されず学び続けられる環境を整え、先進的な研究・教育活動を支える基金です。





学部・研究科などのプロジェクト

学部・研究科等が進める教育・研究や学生支援など、特色ある取り組みを支える基金です。

ゆめ基金

学生一人ひとりの夢や挑戦を応援し、学修・研究・課外活動など幅広い活動を支えることで、未来を切り拓く人材の育成を目指す基金です。



課外活動などのプロジェクト

学生が学びの枠を超えて挑戦する課外活動を支援し、主体性や挑戦する力、豊かな人間性を育む基金です。



冠プロジェクト

ご寄付いただく方の想いに沿って、教育・研究分野や事業、学生支援を継続的に支える基金です。





詳しくはこちら
大阪大学未来基金について

「地域に生き世界に伸びる」を次の100年へとつなぐために

大阪大学の教育・研究活動に格別のご理解と温かいご支援を賜っております皆様に、全構成員を代表し、心より厚く御礼申し上げます。

本学は、他の多くの国立大学とは異なり、関西の財界や政界、そして何よりも大阪府市民の皆様の熱意ある活動によって創設されたという、ユニークな歴史を持っています。この「市民に支えられた大学」という精神は、100年近い時を経た今もなお、私たちの根幹に深く息づいています。

この皆様との強固な絆を、かつてないほど鮮やかに示した出来事が昨年度ございました。本学免疫学フロンティア研究センターの坂口志文特任教授が、ノーベル生理学・医学賞を受賞するという、この上ない栄誉に輝いたのです。この快挙は、長年にわたる地道な基礎研究が花開いた瞬間であり、本学のみならず、日本の学術界全体にとって大きな喜びでありました。

しかし、私たちが何よりも心を揺さぶられたのは、その直後の皆様の反応です。

驚くべきことに、私たち大学が受賞を記念した基金の設立を検討し始めると同時に、多くの寄付者の皆様から「坂口先生の研究をこれからも応援したい」「先生に続く若い研究者を育てるために寄付をしたい」という熱いお声が、次々と自発的に寄せられました。この熱意に応えるべく誕生したのが『坂口志文研究応援基金』です。皆様はもはや単なるご支援者ではなく、本学の未来を共に描き創造いただくパートナーであると、改めて強く認識させられた瞬間でした。この場を借りて、心からの感謝と敬意を表します。



大阪大学は、「地域に生き世界に伸びる」を理念に、社会に寄り添いながら未来を創造する大学を目指しています。直近では大阪・関西万博での研究成果の発信をはじめ、感染症研究、量子科学、ライフサイエンスなど世界をリードする研究を推進するとともに、多様な価値観と実践力を備えた人材育成にも力を注いでいます。また、産学官連携やスタートアップ創出を通じて研究成果の社会実装を進め、新たな価値の創造に挑戦しています。

こうした挑戦を支えているのは、寄付者の皆様からの温かいご支援です。皆様は本学にとってかけがえのないパートナーであり、そのご支援が学生の成長や新たな研究の創出、そして社会への貢献につながっています。皆様とともに、次の100年に向けて、未来を切り開いてまいります。

大阪大学総長



坂口志文研究応援基金

免疫は、いかにして自分の体を守るのか?

坂口志文研究応援基金の設置以降、約120件、総額約3億円のご寄付を賜りました。皆様からのご支援は、研究を前進させるための大きな力となっています。心より御礼申し上げます。思いがけずノーベル生理学・医学賞受賞という栄誉に浴し、受賞発表後には、研究者だけでなく、患者さんやご家族をはじめ、幅広い皆様から励ましのお言葉を頂戴しました。「希望を感じた」「治療に結びつく日を待っている」といった声に触れるたびに、これまでの歩みが社会と確かにつながっていることを実感し、期待に応える責任をあらためて強く感じました。

私たちの研究は「自分を守るはずの免疫が、なぜ自分自身を攻撃してしまうのか」という素朴な疑問から始まり、1995年に過剰な免疫反応を抑える「制御性T細胞(Treg)」を発見し、さらにTregを作り出す役割をもつFoxp3遺伝子の重要性を明らかにしてきました。免疫には本来、自分の体を攻撃しないよう“ブレーキ”をかける仕組み(免疫寛容)があり、Tregはその中心的な役割を担っています。この仕組みが破綻すると、1型糖尿病や関節リウマチなどの自己免疫疾患が生じます。一方、がんなどの疾患では、Tregの“ブレーキ”によりがん細胞への攻撃が弱まることが知られています。つまり、Tregの量や働きを調整できれば、自己免疫疾患やがんに加え、臓器移植で問題となる拒絶反応や、アレルギーの予防・治療など、幅広い疾患の治療への応用が可能になります。制御性T細胞研究を「日本発の技術」としてさらに発展させ、世界を牽引する成果として社会へ届けていきたいと考えています。





研究成果を治療へと結びつけるためには、基礎研究をさらに深化させ、安全性の検証や治療提供の体制づくりまでを着実に進めていくことが重要です。具体的には、ヒト由来試料の解析や、大規模データにもとづく検証、治療候補の安全性・有効性の評価を一つひとつ積み重ね、社会実装へ向けた準備を進めてまいります。また、次世代を担う若い研究者の育成と研究環境の整備にも力を注ぎ、持続的な研究発展を支える体制を整えていく所存です。皆様からお預かりしたお気持ちを、確かな成果として社会に還元できるよう尽力いたします。頂戴したご寄付は、その大きな支えとして、責任をもって大切に活用してまいります。



坂口 志文 特別栄誉教授プロフィール

1976年京都大学医学部卒業。1977年愛知県がんセンター研究所実験病理部門研究生。1983年京都大学大学院にて医学博士取得後、ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員。1987年スタンフォード大学客員研究員。1999年京都大学再生医科学研究所生体機能調節学分野教授。同研究所長を歴任後、2011年大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学教授、2016年同センター特任教授、2025年大阪大学特別栄誉教授。免疫学最後の大発見ともいわれる「制御性T細胞」を1995年に発見し、1型糖尿病など自己免疫病の解明や、がん免疫治療の進展に取り組んでいる。



好奇心が切り拓く、新たな学びの可能性

基礎工学部 4年　山本 舞香 さん

①学部学生による自主研究奨励事業

月経時の経血の流体的観点における実験と数値解析

興味を原動力に、流体力学で社会課題に挑む

中学・高校時代にロボットサイエンス部でプログラミングやロボット開発に取り組む中で、理論的な知識の必要性を感じ、機械力学を深く学びたいと考えるようになりました。大阪大学基礎工学部は、理学的な視点と工学的な応用の両方を学べることが魅力で、自分に最適な環境だと感じて進学しました。大学で流体力学を学び、身近な液体や空気にも法則があることを知ったことが、現在の研究につながっています。

自主研究は、3年生になって授業に余裕ができたことをきっかけに、同学科の女子学生7名でスタートしました。研究テーマを決めることが最も難しく、周囲に研究経験者が少ない中で試行錯誤を重ね、女性ならではの視点を生かせるテーマとして、月経時のナプキンからの液体漏れを流体力学の観点から解明する研究に取り組みました。実験と数値シミュレーションの両面から現象の再現を目指し、基金の支援によって資金面を気にすることなく、「気になることはまず試してみる」という姿勢で研究を進めることができました。



仲間と支え合いながら広がった研究への視野

研究では、流体シミュレーションの経験がなく、プログラミングや現象を数値化する難しさに直面しました。また、マネキンを用いた実験では、人間の身体との違いから想定どおりの結果が得られないこともありました。そのたびに担当教員へ相談を重ね、研究者としての視点から助言を受けながら課題を一つずつ乗り越えていきました。7人という大人数で研究を進めるため、チームごとにリーダーを置き、週1回のミーティングで方向性を共有するなど、円滑なコミュニケーションも大切にしました。

今回の研究を通して、「なぜ現象が起こるのか」を追究するだけでなく、その成果を社会に役立てる工学応用への関心が大きく広がりました。また、一人で取り組むことを好んでいた自分が、仲間に頼りながら研究を進めることの大切さも実感しました。さらに、研究をきっかけに大学院進学を決意したメンバーもおり、この経験が進路や将来を考える大きな転機になったことを感じています。理系分野では女性が少ない環境に不安を感じることもありますが、仲間同士で支え合いながら研究を続け、これからも工学を通して社会に役立つ研究に挑戦していきたいと考えています。

②学部学生による自主研究奨励事業

高大接続事業におけるファシリテーターの言動が高校生の探究心に与える影響について

「知りたい」という思いを研究につなげる

私が取り組んだ研究テーマは、「高大接続場面における協働学習の有効性」です。高校時代に行った学内研究活動や大阪大学のSEEDSプログラムへ参加した際に、仲間と対話しながら学ぶことで新しい気づきが生まれる面白さを実感し、「対話を支える大学生ファシリテーターの働きかけが、高校生の探究心にどのような影響を与えるのか」を明らかにしたいと考えるようになりました。

研究では、SEEDSプログラムをフィールドに、大学生ファシリテーターと高校生約170名を対象として4回のアンケート調査を実施しました。双方への調査結果を分析したことで、高校生がファシリテーターからの支援をどのように受け止め、その受け止め方が探究心の向上につながるのかという複数のプロセスを明らかにすることができました。また、研究基金は調査協力者への謝礼として活用させていただき、80～90%という高い回収率を実現できたことで、信頼性の高いデータに基づく分析を行うことができました。

研究を進める中では、自分の関心を具体的な研究課題へ落とし込むことや、1万字を超える成果報告書の執筆に苦労しました。それでも、「なぜこの研究をしたいのか」という初心に立ち返ることで最後まで取り組むことができ、研究をやり遂げたことは大きな自信につながりました。

いただいた支援を、次の挑戦へつなげたい

この研究を通して、授業で学ぶ内容も「自分の研究を深めるための学び」として考えられるようになり、研究に向き合う姿勢が大きく変わりました。また、調査先との報告・連絡・相談を丁寧に重ね、多くの方々の協力があって研究は成り立つことも実感しました。

研究成果は、日本教育工学会2026年春季全国大会学生セッションで優秀発表賞を受賞し、自分の研究が評価されたことは大きな励みになりました。現在は、今回の研究を発展させたテーマで新たな観点での研究にも挑戦（2026年度の自主研究奨励事業にも採択）しており、将来は大学院へ進学し、教育工学の研究を続けたいと考えています。皆様からいただいたご支援は、私が研究に挑戦し、成果を社会へ発信する大きな力となりました。これからも学習者と教育者の双方にとってより良い教育環境の実現に貢献できるよう、研究を続けていきたいと思います。





探究心を育む対話の力を明らかにしたい

人間科学部 3年　吉岡 絵珠音 さん

学部・研究科等プロジェクト

大阪大学は日本屈指の研究型総合大学であり、多様な分野において、日々、教育・研究活動が展開されています。こうした幅広い学びと研究を支えるため、本学では、学部や研究科などの教育・研究活動に使途を限定した特定基金を設けており、皆様から寄せられた温かいご支援は、本学の教育・研究活動を支える大きな力となっています。本ページでは、歯学部・歯学研究科とレーザー科学研究所へのご支援をご報告いたします。

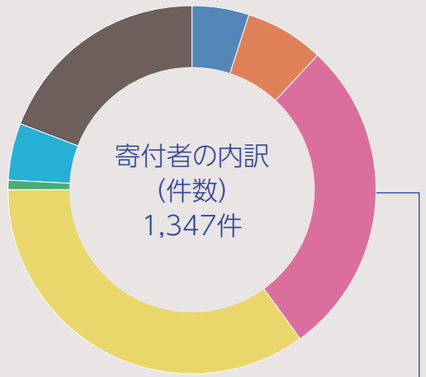
事業数
（2026年3月末時点）

56件

2025年度寄付総額

4億3,930万円

学部・研究科等／寄付者の内訳



法人	69件	（ 5%）
教職員	101件	（ 7%）
卒業生	375件	（28%）
保護者	467件	（35%）
在学生	16件	（ 1%）
元教職員	67件	（ 5%）
その他	252件	（19%）

応援の声



岡田 義男 様

Ph.D. (Princeton)/
IEEE Life Senior Member/
株式会社フローディア 技術アドバイザー

対話型AIの登場以来、AI技術は社会を大きく変えつつあります。その未来を支える安全でクリーンなエネルギーとして、レーザー核融合は人類に大きな恩恵をもたらす技術になると期待しています。世界をリードする阪大レーザー科学研究所の挑戦を、微力ながら応援したいと思います。また、アートギャラリーの「学びたい・始めたい」の詩に勇気をいただき、古希の年に大学院で量子情報科学を学び始める一歩を踏み出すことができました。

特定基金　歯学部・歯学研究科教育研究事業

未来の歯科医学を担う人材を育成

大阪大学歯学部・歯学研究科では、未来基金を通じた皆様からの温かいご支援により、学生の学びを支える教育環境の充実と、国際的人材の育成を進めています。

2025年度は、学部学生をソウル大学、マヒドン大学、チュラロンコン大学、ミシガン大学、国立台湾大学へ派遣したほか、日本・韓国・タイ・オーストラリアの国際シンポジウムへの参加や大学院生の海外派遣を支援しました。海外の学生や研究者との交流を通して視野を広げ、国際感覚と専門性を磨きました。参加した学生からは、「世界トップレベルの歯学教育・研究・診療に触れ、英語で専門的な議論を重ねる中で、自信が高まった」との声が寄せられ、海外での経験が成長につながっています。


学部学生海外派遣プログラム（ミシガン大学：左から3名が本学部生）

また、高度な臨床技能の修得を目的にファントム実習システムを整備し、実践的な教育環境を充実させました。さらに、優秀な学生・大学院生への表彰や研究奨励を通じて、学生・教員の意欲を高め、教育・研究活動の発展を支えています。

未来基金を通じた皆様のご支援は、学生の挑戦を後押しし、新たな学びや研究への意欲を育んでいます。大阪大学歯学部・歯学研究科は、これからも未来の歯科医学を担う人材を育成し、教育・研究環境の充実に努めてまいります。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げるとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。


ファントム実習トレーニングシステム
（新規実習台設置箇所）


学位記授与式における研究科長賞の授与
（大学院生5名）

特定基金　レーザー研NEXT50事業

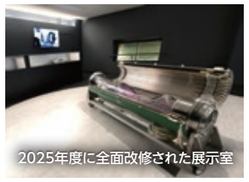
レーザー科学の未来を拓く研究環境の充実

当研究所は、2022年に工学部附属施設として創設50周年を迎えました。そこから、2026年の全国共同利用のレーザー核融合研究センター発足50周年までの5年間を、次の50年を展望する期間と位置づけ、「レーザー研NEXT50事業」を進めてまいりました。世界をリードするレーザー科学研究の推進と、その担い手となる若手研究者・学生の育成、そして創造性あふれる研究環境の充実に取り組んでいます。

未来基金を通じてお寄せいただいたご支援により、当研究所では研究環境の整備を着実に進めることができました。研究所アプローチの整備に加え、研究棟や超大型レーザー実験棟の玄関を整備・改修し、アート作品やグランドピアノを設置しました。これらの整備により、老朽化が進んだ研究所のエントランスが、研究者や学生が集い、新たな交流が広がる空間へと生まれ変わりました。また、周年記念のシンポジウム等の開催を通じて、多様な人々がつながる機会も広がりました。さらに、2025年度には展示室を全面改修することができ、レーザー科学の魅力をより分かりやすく発信する空間として、多くの来訪者を迎える研究所の新たな顔となっています。


超大型レーザー実験棟エントランス改修記念式典の様子


改修後のエントランスで開催された
「音楽の夕べ―The Fusion―」


2025年度に全面改修された展示室

最先端の研究は、優れた設備や装置だけでなく、人と人が集い、互いに刺激し合える環境から生まれます。皆様からのご支援は、創造性あふれる研究環境を育み、未来を担う若手研究者・学生を支え、新たな学術・技術の発展へとつながっています。

ご支援をお寄せくださった皆様に、心より感謝申し上げます。レーザー科学が切り拓く未来を次世代へつなぐため、これからも挑戦を続けてまいります。

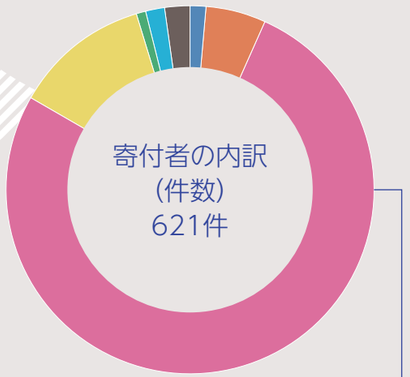
課外活動プロジェクト

大阪大学には、学部学生と大学院生を合わせて2万2,756名（2026年5月1日現在）の学生が在籍しています。それぞれが学びや研究、課外活動に励むなか、学生たちの挑戦を支える仕組みの一つが、課外活動に関する特定基金です。皆様からのご支援は、学生たちの活動環境の充実や、新たな挑戦を後押しする力となっています。
その一例として、飛行機制作研究会albatrossと大阪大学応援団の活動の様子をご紹介します。

事業数
（2026年3月末時点）
33件

2025年度寄付総額
3,963万円

学部・研究科等／寄付者の内訳



法人	9件	（ 1%）
教職員	34件	（ 6%）
卒業生	475件	（76%）
保護者	74件	（12%）
在学生	5件	（ 1%）
元教職員	11件	（ 2%）
その他	13件	（ 2%）

応援の声



柳生 宗一 様
大阪大学応援団OB（第27・28代団長）

大阪大学応援団は今年で創団65周年を迎えました。体育会所属団体の位置付けではありますが各運動部の応援の他、学祭でのステージや入学式・卒業式の壇上で応援歌を披露するなど、今や大阪大学全体を応援する存在として活躍しております。そういった活動が報道される機会も増え、今春には一気に十数名の新入生が入団し益々活躍の幅を拡大しております。そんな現役団員に対し我々OBは「金出して口出さず」をモットーに日頃より財政面を含めいろいろな支援を行っております。2027年には七大戦阪大主管を控えており、更なる活動の場での充実を図るために、ぜひとも未来基金によるご支援をお願いする次第です。

特定基金　大阪大学飛行機制作研究会albatross支援事業

鳥人間コンテスト初優勝！
2連覇にむけて、機体とパイロットを強化


4月末に行ったテストフライト。
滑走路をお借りし、短距離の飛行をします。

平素よりalbatrossの活動を応援してくださっている皆様、誠にありがとうございます。2025年大会は琵琶湖で15kmのフライトを達成し、優勝いたしました。2026年も、皆様のご支援により大会に出場し、2連覇を目指すことができました。
優勝機体「白夜」を作った代が引退した後、パイロットトレーニングに長年使用していた機器がついに壊れてしまいました。高価なものであり、突然の故障に困っていたのですが、皆様のご支援から買い替えに必要な費用を出し、トレーニング環境をすみやかに整えることができました。
日頃より琵琶湖の環境と機体搭乗時の姿勢を想定したトレーニングを行うことで、ほぼ一発勝負といえる大会において有利になることができると考えております。
また機体には見えない部分も含めて、高価な部品が使われているため、例年皆様のご支援に大いに助けられております。
2025年に20周年を迎えたalbatrossですが、21年目からは「強豪」として認められるよう、最高のフライトをお見せします。
さらに、今後の活動の発展のため、皆様の応援、ご寄付を賜りたく存じます。未来基金へのご寄付、テレビやYoutube配信でのご声援はすべて私たちの力になっております。
今後ともよろしくお願い申し上げます。


パイロットトレーニングの様子。通常の自転車と異なり、リカンベントと呼ばれる姿勢で行います。


4月にグラウンドで行った「全組」試験。
完成したばかりの機体を初めて組み立て、各部分をテストしました。

特定基金　大阪大学応援団支援事業

新団旗とともに
大阪大学を盛り上げる


いちょう祭での演舞の様子

平素より大阪大学応援団の活動にご支援を賜り、誠にありがとうございます。弊団では、皆様からのご寄付を遠征時の交通費や備品の購入などに活用させていただいております。特に、2026年5月には新団旗を購入いたしました。この団旗には、新たな英語名称である「The University of Osaka」を旗布部分に記すとともに、剣先部分には3Dプリンターによりいちょうやまちかねワニを模したデザインを採用するなど、大阪大学らしさのあふれる団旗となっております。そして新団旗の大きな特徴は、ポール部分軽量化の実現により性別問わず誰もが旗手に挑戦することが可能になりました。大阪大学応援団は、「大阪大学を盛り上げる」という活動理念のもと、日々の応援活動に励んでおります。皆様のご寄付によって実現したこの団旗とともに、一人ひとりが応援団員としての自覚を持ち、大阪大学に関わる全ての方々に力を与えられるよう、今後も活動に励んでまいります。


この春入団した17名の新入団員



試合応援での新団旗掲揚


準硬式野球部応援の様子

ご支援ありがとうございました!
大阪大学クラウドファンディング

クラウドファンディング

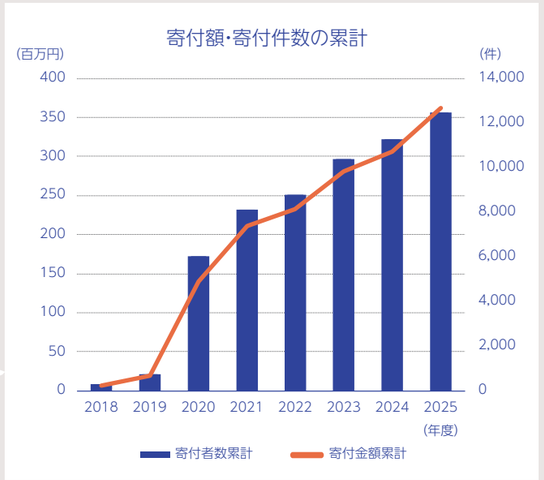
大阪大学では、2018年からREADYFOR株式会社と提携し、クラウドファンディングを実施しています。研究や学生による課外活動など、多彩なプロジェクトがインターネットを通じて全国へ発信され、多くの方々に支えられています。プロジェクトを通じて、研究者や学生自らが活動への思いや目標を発信し、共感の輪を広げていることも、クラウドファンディングの大きな特徴です。

プロジェクト数
(2026年6月末までの累積)

45件

寄付総額
(2026年6月末までの累積)

3億9,714万円



寄付者総数
(2026年6月末までの累積)

1万2,926名

\ 応援の声 /



井阪 京子 様

左／井阪 京子 様
右／遠藤 誠之 教授
大阪大学医学部附属病院　胎児診断治療センター
プロジェクト実行責任者

103歳まで生きた私の母は、昔から「子どもは宝」という想いを強く持っている人でした。
私は、亡き母が残した財産を、国の宝である「こども」のために寄付したいという想いを、ずっと持っていました。
そんな時、テレビで胎児治療のプロジェクトを知り、「これは母の想いを実現させるために、このプロジェクトに寄付をしなければ」と思いました。そこで連絡をし、寄付をさせていただきました。
このことを、亡き母もきっと喜んでくれていると思います。
これからも先生方を応援しています。

クラウドファンディング　先導的学際研究機構

フードロス「ゼロ」への挑戦！
──産業植物で食のミライをかえる──

先導的学際研究機構　産業バイオイニシアティブ研究部門では、「食に関わる新技術」を軸として活動しております。このたびは、「フードロス『ゼロ』への挑戦！──ゲノム編集で未来のジャガイモと産業植物を創る──」プロジェクトに、171名もの皆様から温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
本プロジェクトは、食品ロスや資源・食料問題といった社会課題の解決を目指し、ゲノム編集技術を活用して「毒が少なく、収穫後に芽が伸びにくいジャガイモ」の開発と、植物を活用した有用天然物の持続的生産技術の確立に挑戦するものです。研究成果を社会実装へつなげるためには、多くの方々に研究の意義を知っていただき、ともに未来を考えていただくことが不可欠と考え、クラウドファンディングに挑戦しました。
皆様からのご支援により、研究を着実に前進させることができただけでなく、多くの企業や自治体との新たな出会いが生まれ、産学共創グラント採択やスタートアップ構想へと発展するなど、社会実装に向けた大きな一歩を踏み出すことができました。クラウドファンディングは資金調達にとどまらず、研究と社会を結ぶ大切な架け橋であることを実感しています。
今後も、大学で生まれた研究成果を社会に届け、「フードロスゼロ」や持続可能なものづくりの実現に貢献できるよう挑戦を続けてまいります。皆様からいただいた温かいご支援と励ましに、改めて心より感謝申し上げます。
皆様のご支援は、研究を前進させただけでなく、「大学の知を社会へ届ける」という私たちの挑戦を力強く後押ししてくださいました。今後もその期待に応えられるよう、研究成果の社会実装に全力で取り組んでまいります。心より御礼申し上げます。


ゲノム編集ジャガイモの培養物を観察する村中俊哉特任教授


他のプロジェクトと共に第4回国際発酵・醸造食品産業展にブースを出展

クラウドファンディング　保健学科教育研究事業

お母さんのおなかの中で難病の手術を。
胎児手術が選択できる未来へ挑む

大阪大学医学部附属病院胎児診断治療センターでは、胎児　(生まれる前の赤ちゃん)に診断された脊髄髄膜瘤を、生まれる前に手術する「胎児手術」を2021年から開始しています。胎児手術によって、歩けなかったかもしれない子が歩けるようになったり、発達の障害で悩んでいたかもしれない子が、そのような問題を抱えずに生きられる可能性があるのです。2025年には先進医療として治療を行うことのできる段階まで歩んでまいりました。現在、この治療を受けることができるのは、大阪大学と国立成育医療研究センターの2施設だけです。
出生前に脊髄髄膜瘤と診断された、胎児手術を必要とする全ての赤ちゃんとご家族に、居住地域や経済状況によらず、胎児手術を安心して選択肢の一つとして考えていただきたいという思いから、今回、大阪大学公式クラウドファンディングで、ご寄付を募らせていただき、多くのご支援をいただきました。
これまでに、先進医療として4症例、脊髄髄膜瘤胎児手術を行いました。そして、先進医療にかかる費用の補助、そして遠方から来られたご夫婦に対して、大阪大学までの旅費・宿泊費等の負担軽減に、皆様のご寄付を活用させていただき、それにより来院されたご夫婦の方々からも感謝の言葉をいただいております。
今後もチーム一丸となって、先進医療を引き続きしっかりと進めていきます。そして、この胎児治療が日本でも標準治療となるようにいたします。
このように胎児手術を必要とする全ての赤ちゃんと家族が安心して治療を受けられる環境を整えられているのも、ご支援をいただいた皆様のおかげです。チーム一同、心より感謝しております。


胎児手術シミュレーションのワンシーン。一つ一つの手術手順を丁寧に確認しています。


胎児手術開始前の"Team Fetal"集合写真です。

詳しくはこちらからご覧ください。

紺 綬 褒 章

500万円以上のご寄付をいただいた個人、1,000万円以上のご寄付をいただいた団体にご意向を確認の上、文部科学省に紺綬褒章を申請いたします。





紺綬褒章が授与されましたら、伝達式を開催し、熊ノ郷総長より伝達物を受章者にお渡ししております。

顕 彰

感謝状の贈呈

2万円以上のご寄付をいただいた皆様に感謝の心を込めて、大阪大学総長から感謝状を贈呈いたします。

「大阪大学感謝の集い」へのご招待

一定期間内に一定額以上のご寄付をいただいた皆様を、大阪大学総長が主宰する意見交換会「大阪大学感謝の集い」に招待いたします。

高額御寄付者顕彰プレート

累計50万円以上のご寄付をいただいた方には、ご意向を確認の上、ご芳名をプレートに記し大阪大学中之島センター・大阪大学会館に掲示させていただきます。

銘板の種類	寄付累計額	顕彰プレート（イメージ）
プラチナプレート	5,000万円以上	阪大 太郎
ゴールドプレート	★★★ 3,000万円以上 ★★ 1,000万円以上 ★ 500万円以上	阪大 花子
シルバープレート	100万円以上	阪大工業 株式会社
ブロンズプレート	50万円以上	阪大電力 株式会社

※各種銘板につきましては、今後、デザインおよび仕様が変更となる場合があります。
変更内容や時期につきましては、決定次第、未来基金Webサイト等でお知らせいたします。

未来基金の状況

皆様のご支援により累計145.9億円に達しました

大阪大学未来基金は、設置当初（2009年5月）からの受入金額の累計が145.9億円に達しました（2026年3月現在）。これは、卒業生をはじめ、地域社会、企業・団体など、多くの皆様から長年にわたり温かいご支援をお寄せいただいた成果であり、心より感謝申し上げます。

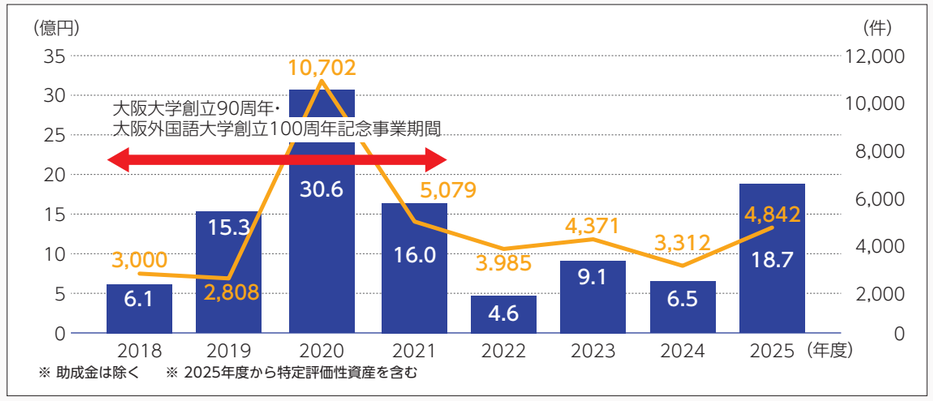
収支状況は以下のとおりです。現在の基金残高は約63億円となり、安定的な基金運営と適切な資産運用を通じて、本学の教育・研究、学生支援、社会連携など、さまざまな事業の充実に活用しております。

創立100周年が近づくにあたり、皆様からお寄せいただいたご厚意とご期待を改めて胸に刻み、その思いを未来へつないでいくことが私たちの使命であると考えております。

これからも、大阪大学未来基金事業の充実と発展に努め、大阪大学の教育・研究のさらなる発展を支えるため、未来基金事業の一層の充実に努めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

筆頭理事・副学長　　藤尾　慈

近年の寄付額・寄付件数の推移（年度別）



※ 助成金は除く　※ 2025年度から特定評価性資産を含む

収支状況

内訳		累計額（億円）
収入	寄付受入	143.2
	運用益	2.7
	小計	145.9
支出	基金事業への支出	81.2
	活動費	1.6
	小計	82.8
基金残高（2026年3月31日現在）		63.1
特定評価性資産（2026年3月31日現在）		11.5

※ 助成金は除く　※ 小数点以下第2位を四捨五入　（2009年5月～2026年3月）